

大阪大学グローバルCOE コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点共同研究プロジェクト
オルタナティブ・ジャスティスの世界的動向に関する共同研究

研究経過報告

石田慎一郎（研究代表者・特任助教）

【研究目的】（平成20年度「交付申請書」より、一部加筆修正）

「オルタナティブ・ジャスティス」は、これまでになかった新しい概念である。本共同研究では、これを操作的概念として活用し、人類学・法学・平和研究の3分野を横断するコンフリクト研究を理論面・実践面で構築する。

「オルタナティブ・ジャスティス」を共通テーマとするに至った経緯は次のとおりである。（1）現在、民事司法分野におけるADR（裁判外紛争処理）、刑事司法分野における対話による犯罪解決としての修復的司法、さらには平和構築分野における真実委員会など、各分野における従来の手法に対するオルタナティブ（オルタナティブ・ジャスティス）を模索する理論・方法論が注目されるようになっている。さらに、（2）上記のADR、修復的司法、真実委員会には、理論・方法論上さらには思想上の接点が認められる。だが、（3）現在の学界ではこれらを総合的に討議するための場が発達していない。（4）これは、例えば、民事司法の対象が、「対争のうち言語上のもの」ないしは「具体的な対争を意図的に加工・変形して得られる、抽象的な対争形態の一つである」争論（dispute）に向かい、対争（contention）や混争（disturbance）を含めた包括概念としての紛争＝コンフリクトを対象にしてこなかった点に由来する（尤も、そのことについて法学を批判するつもりは毛頭ない）。よって、本研究では、（5）紛争＝コンフリクトの多元性を重視しつつ討議の場を共有するうえで、「オルタナティブ・ジャスティス」研究に着手した。

本共同研究の目的は次のとおりである：（1）対争（contention）・争論（dispute）・混争（disturbance）を含む包括概念としての紛争＝コンフリクトを対象にする。（2）アジア・アフリカ諸国における、未来志向型アプローチとしての「紛争転換」（conflict transformation）に向けた実践的提言を目指す。（3）民事司法分野における「裁判外紛争処理」、刑事司法分野における対話による犯罪解決としての「修復的司法」、さらには平和研究分野におけるnon-violent alternativesをも含む、広義のalternative approachを研究対象とする。（4）人類学・法学・平和研究の3つの学問分野を広く展望しながら、アジア、アフリカ諸国におけるオルタナティブ・ジャスティスの可能性を追究する。（5）アジア、アフリカ社会における和解・平和構築アプローチの多元性に着目し、具体的な調査資料に基づいて、オルタナティブ・ジャスティスの概念確定と理論構築を進める。

【研究組織】

石田慎一郎（大阪大学大学院特任助教、法人類学・アフリカ法）＝代表者
荒井里佳（弁護士、企業法務一般・消費者法・家事法）
海野るみ（お茶の水女子大学講師、文化人類学・アフリカ研究・先住民研究）
加藤敦典（日本学術振興会特別研究員〔南山大学〕、政治人類学・ベトナム村落自治法）
河村有教（海上保安大学校准教授、刑事訴訟法・法社会学・アジア法）
久保秀雄（京都産業大学助教、法社会学）
菌巳晴（ノルド社会環境研究所主任研究員、開発法学・法社会学・国際関係法）
高野さやか（東京大学大学院博士課程、法人類学・インドネシア法）
馬場淳（日本学術振興会特別研究員〔東京外国語大学〕、社会人類学・パプアニューギニア法）
クラウディア・イトゥアルテリマ（ロンドン大学UCL博士課程、法人類学、知的財産法）

【平成20年度研究活動】

- 第4回研究会（2008年5月24日、25日）
研究発表（荒井）、全体ディスカッション、海外研究機関の動向報告（河村、高野、石田）
第5回研究会（2008年6月28日、29日）
研究経過報告会（これまでの研究会での意見交換をふまえ各自が20分程度の発表を行なう）
第6回研究会（2008年10月4日、5日）＝公開研究会
研究発表（石田、加藤、高野）
第7回研究会（2008年12月6日、7日）＝国立民族学博物館若手共同研究第1回研究会
研究発表（久保、河村、海野）
第8回研究会（2009年1月24日、25日）＝国立民族学博物館若手共同研究第2回研究会

海外研究文献紹介（石田、河村、高野、海野、クラウディア）、国際ワークショップ打ち合わせ
第9回研究会（2009年2月7日、8日）=第1回国際ワークショップ
国際ワークショップ（ステファン・パーメンティア教授招聘）
第10回研究会（2009年4月18日、19日）=国立民族学博物館若手共同研究第3回研究会
研究発表（菌、馬場、荒井）
平成21年度は、他に研究会3回（国内研究者1名招聘、海外研究者2名招聘、いずれも調整中）を予定。

【平成20年度研究経費】

- ・グローバルCOE交付金 50万円（平成20年度）
- ・科学研究費補助金若手研究（スタートアップ）「ケニア山周辺地域におけるオルタナティブ・ジャスティスの民族誌的研究」 120万円（平成20年度）
- ・国立民族学博物館若手共同研究「アジア・アフリカ諸国における裁判外紛争処理の再編が旧来の多元的
法体制に与える影響についての共同研究」 50万円（平成20年9月-平成21年8月）

【ウェブサイト運営】

- ・本共同研究の概要と各研究会の報告内容は、コンフリクトの人文国際研究教育拠点ウェブサイト内の
共同研究ウェブページに英文で公開している。

【国際ワークショップの実施】

- ・2007年2月7日、8日に、ベルギー、ルーヴェン・カトリック大学法学部のステファン・パーメンティ
ア教授を招いて国際ワークショップを開催。『コンフリクトの人文』2号特集として成果開示予定。

【ジャーナル『コンフリクトの人文』投稿】

第1号

資料と通信

- ・ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）におけるアジア・アフリカ法研究および教育の動向——ヴェ
ルナー・メンスキー教授との交流を中心に 石田慎一郎・河村有教
- ・ルーヴェン・カトリック大学との研究協同に向けて——「トランジショナル・ジャスティスと人権」研
究及び法学部における「法と人類学」教育の紹介 河村有教
- ・「深く根ざした」紛争への取り組み——ジョージ・メイソン大学紛争分析解決研究所における研究・教育
活動から 高野さやか

書評

- ・James M. Donovan, *Legal Anthropology: An Introduction*. AltaMira Press, 2008. 石田慎一郎

第2号（予定）

特集 移行期社会におけるオルタナティブ・ジャスティス

- ・はじめに 栗本英世
- ・移行期社会におけるオルタナティブ・ジャスティス——真実委員会と修復的司法 石田慎一郎・河村有教
- ・映画解説 Long Night's Journey into Day: South African Search for Truth & Reconciliation 海野のみ
- ・政治犯罪に修復的司法は可能か——南アフリカからの教訓 ステファン・パーメンティア（翻訳 石田
慎一郎・河村有教）
- ・集団暴力後のグローバル・ジャスティス——政治犯罪における国際刑事裁判所の役割 ステファン・パー
メンティア（翻訳 石田慎一郎・河村有教）
- ・政治犯罪に対する修復的アプローチをめぐる総合的検討——ワークショップにおけるコメント及び質疑
応答 石田慎一郎、河村有教、加藤敦典、久保秀雄、高野さやか、馬場淳、クラウディア・イトゥアルテ
=リマ

書評

- ・阿部利洋『紛争後社会と向き合う——南アフリカ真実和解委員会』京都大学学術出版会、2007年、石田
慎一郎
- ・Nneoma V. Nwogu, *Shaping Truth, Reshaping Justice: Sectarian Politics and the Nigerian Truth
Commission*. Lanham: Lexington Books, 2007. 石田慎一郎

【成果とりまとめ】

- ・本共同研究は本年度を最終年度とする。
- ・平成21年度末に日本語論集刊行を目指す（平成21年8月末原稿締切）。
- ・平成22年度上半期に英語論集刊行を目指す（平成21年10月末原稿締切）。